

Our Hour 淡路島分科会

代表 地白 勇

Our Hour 淡路島分科会では、昨年度、淡路島検定作成に向けて、伊勢志摩にヒントを求め、ご当地検定「お伊勢さん」の実施から観光ガイド事業へと発展させた伊勢神宮界隈を視察しました。現地では、観光ガイドの運営形態やサービスの提供について学び、その他伊勢神宮（外宮・内宮）以外の街あるきガイドの任意団体が活発に活動している様子についても学ぶことができました。

実地調査を行った「お伊勢さん」を参考に、淡路島検定を作成する際に必要不可欠となる、淡路島の観光スポットや名物、歴史・文化、有名人等について調査することで、淡路島のPR方法や地域学の再考にもつながりました。



淡路島の空



淡路島検定の候補となる観光地等

環境とエネルギー分科会

代表 村田 泰志

環境とエネルギー分科会では、昨年度に引き続き、淡路島におけるごみとエネルギー問題に着目し、調査してまいりました。淡路島内にある3つのごみ処理施設と、3市のそれぞれにある資源ごみ分別施設を見学しました。そこで浮き彫りになってきたのが、燃えるごみ、燃えないごみの3つの処理施設にある、約10年後問題です。約10年後には、

耐久年数や契約の関係で、補修工事や建て替え、退去等の何らかの変化を余儀なくされています。そこで当分科会では、3つの施設を1つに集約し、大規模な処理場を作ることによって、余剰熱を利用し発電や温泉施設などを併設すれば良いのではないかと考えました。この考えを一般の方にも知っていただくために、パンフレットの作成・配布を実施しました。



環境とエネルギー分科会が考えるごみ処理施設



南あわじ市ごみ処理施設「やまなみ苑」

全体の活動 全体会の開催

令和元年12月1日(土)に、第6回全体会を開催し、「淡路島の魅力」を題材として、トークセッション・グループワークを行いました。

トークセッションでは、淡路島へ移住された中国の方2名とベトナムの方1名にゲストとしてご参加いただき、移住してくる前と移住してからの淡路島の印象についてお話をいただきました。

その後のグループワークでは、「淡路島の魅力を伝える」と題して、淡路島ならではの魅力について発掘作業を行いました。移住者ゲストの3名にもご参加いただき、淡路島民の中でも複数の視点から見た淡路島の魅力について意見を共有することができました。



第6回全体会の様子

環境立島あわじ

～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島”～

淡路地域ビジョン委員会Facebook

検索

発行／淡路地域ビジョン委員会

事務局：兵庫県淡路県民局 県民交流室 未来島推進課

〒656-0021 兵庫県洲本市塩屋2-4-5 ☎0799-26-2125 FAX 0799-24-6934

E-Mail awajikem@pref.hyogo.lg.jp



01淡路@2-013A4

第9期淡路地域ビジョン委員会

令和
元年度

活動の記録

淡路地域ビジョン委員会では、「環境立島あわじ～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島へ”～」という目標を実現するために、4つの実践目標を掲げ、住民自らが淡路島の未来はどうあるべきかを考えながら、さまざまな活動に取り組んでいます。

- 実践目標 1 誰もが役割を持ち、地域の宝が生きる島づくり
- 実践目標 2 個性と活力にあふれ、新たな価値を生み出す島づくり
- 実践目標 3 自然とのつき合い方を再考し、その恵みに支えられた島づくり
- 実践目標 4 経済、社会、環境が調和し、命をつなぐ島づくり

菜の花・ムラサキハナナ! (一社) 淡路島観光協会提供

「第9期淡路地域ビジョン委員会を終えて」

第9期淡路地域ビジョン委員会は9つの分科会となりました。

小学生の親子プログラミング教室、手をつなぐRUN伴、街づくり団体の発表会、冬のテント避難体験、各市ごみ処理場の見学、竹粉碎しての石鹼づくり見学、馬そり乗り体験、うず潮と海人姫などに私も参加し感動的な経験をさせていただきました。どの会も先進性のある取り組みでした。

全体会では中国の方2名とベトナムから来られて子育てをされている方にお越しいただきました。来る前と住んでからの淡路島の印象をお聞きしグループワークにも入っていただいて淡路島の魅力を再認識する機会となりました。

今期ご参加、ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げますとともに、これからのビジョン委員会の活動に期待しております。



第9期淡路地域ビジョン委員会委員長 小田 美根子

教育・文化分科会

代表 西野 孝司

教育・文化分科会の目標は、「様々な体験活動を通して、児童・生徒に生きる力を育てる」ことです。この目標を達成するため、具体的には、①漁業親子体験 ②プログラミング教室 ③淡路島に関わる歴史学習の出前授業（1年目のみ）の3つの活動を実施しました。漁業親子体験では、申し込みが殺到し驚きました。1年目は台風接近で船上での釣りは中止となりましたが、2年目は天候も良く、児童達は船上や岸壁からの釣りを楽しみました。

2020年4月から新しい学習指導要領が実施され、小学校では3年生以上が「プログラミング」が必須授業になります。その手助けとして、2年間、講師を招きプログラミング教室を実施しました。大勢の小中学生が親子で参加し、一生懸命パソコンを操作していました。



漁業親子体験



プログラミング教室

防災分科会

代表 原 竜也

2年目の防災分科会の活動では、避難所運営ゲーム(HUG)を実施しました。HUGとは、避難所運営を模擬体験するゲームです。ゲーム感覚で避難所の運営を学ぶことができました。この学びを活かして、地域自治会の住民・小学校の先生と共にHUGを行い、カードに書かれた様々な出来事に対応していくか話し合いました。意見交換する中で、多くの問題点が浮き彫りになりました。この問題点をどのように解決していくかが課題となります。その課題の一つが、ブラックアウト体験(大規模停電)です。防災分科会では、12月に防災キャンプを実施する中で、ブラックアウト体験を検証しました。



避難所運営ゲーム(HUG)



防災キャンプ(ブラックアウト体験)

福祉分科会

代表 安居 道彦

私たち福祉分科会は「認知症をささえる家族の会・にじの会」の活動を通じて、認知症の啓発や「居場所づくり」に取り組んでいます。11月2日に淡路島で初めて開催された、「RUN伴 洲本2019」。これは今まで認知症の人と接点がなかった地域住民と、認知症の人や家族、医療福祉関係者が一緒にタスクをつなぎ日本全国を縦断するイベントです。私たちは認知症支援のシンボルであるオレンジカラーの「のほり」と「横断幕」を作成し、それを掲げてのランニングやウォーキングパレードに参加することで、洲本市内中に啓発・アピール活動を行いました。いつまでも淡路島で暮らしていけるよう、これからも『みんなで作ろう“あなたの居場所”』を合言葉に進んでまいります。



RUN伴洲本2019



介護者の集い

まちづくり分科会

代表 上宮 平

まちづくり分科会は、「まちづくり」とは何かについて、委員11名で淡路島に希望を描く分科会です。淡路島の南・中央・北の3地域にて、各地域の活動者の意見を聞くミニフォーラムを開催し、まちづくりや思考モデル、行政との連携について語り合いました。ミニフォーラムの集大成として、昨年度に引き続き、淡路島まちづくり発表会「第2回まかせよ!まちづくり!」フォーラムを開催しました。様々な分野で活動されている団体に登壇していただくことで、参加者及び登壇者間の交流を深めることができました。また、淡路島のビジョン・まちづくり・未来を語り演じることで、UIJTO (T: tourists, O: originator) ターンの社となるような、「時勢の風生きる会(じせいのかせにいきるかい)」となりました。



まちづくりミニフォーラム



第2回まかせよ!まちづくり!フォーラム

分科会の活動

淡路島のビーチクリーンを通じた 溶け合う場作り分科会

代表 山下 勉

淡路島のビーチクリーンを通じた溶け合う場作り分科会では、島の海を守る活動を軸に、馬やヨットなどの体験を楽しみながら、「地元と移住者」「若者と年配者」の交流の場を作ることを目的に活動してきました。2年目は、8月から10月にかけて淡路島内各市(洲本市:都志・南あわじ市:慶野松原・淡路市:佐野)の海岸にて、ビーチクリーン活動を実施しました。普段の生活では関わることの少ない馬と触れ合うことで、子ども達を中心に、楽しみながら積極的に清掃活動に取り組むことができました。また、回数を重ねる毎に参加者同士が柔らかい雰囲気の中で交流している様子も見受けられ、交流の場作りとしても取り組むことができました。



島内3市でのビーチクリーン活動

農林水産分科会

代表 楓 るみ子

機械設備に囲まれる環境は、都会も農村もしたいに区別がなくなっており、農作物の収穫量は伸び、昔のような辛い農作業も少なくなりました。

しかし、農業が工業製品を駆使し工業的な精算方法に学ぶとしても、生き物や自然が相手の農業は、都会のビルや工場の中で営まれる他の産業とは、本質的に違いがあります。農林水産分科会では、この2年間で、島外から移り住み農業を営む若者達との談話式フォーラム、子ども達に過去・現在・未来の農業について学んでもらう農業体験、素麺づくり体験、竹林の活用や食の開発、試食会、野菜の成分表や魚歴のパネル作成、島外研修会等を実施しました。それらを通して、農業は、食料や衣料(綿等)を生産する産業であると同時に、人類が作物や家畜などを仲間とこの地球上の様々な自然環境に適応して生き抜いていく「生存活動そのもの」であると学ぶことができました。



農業体験・草刈体験



素麺づくり体験

鳴門海峡の渦潮の普及啓発分科会

代表 関口 功

鳴門海峡の渦潮の普及啓発分科会は、淡路島の未来を担う子供たちを対象に、島内の小学校9校357名に「鳴門海峡の渦潮学習出前教室」を実施しました。当分科会では、兵庫・徳島両県で鳴門の渦潮の世界遺産登録を目指して活動していることを多くの子供たちに知ってもらうため、出前講座を実施しています。

2年目である今年は、昨年度の倍以上の学校数の子供たちに、渦潮の素晴らしさを出前講座の体験を通じて感じていただくことができました。

また、国生み神話に語られる渦潮や海人族(あまぞく)の塩づくりの様子を表現することを通して、これからも世界遺産への私たちの熱い思いを若い世代に伝えていきます。



「鳴門海峡の渦潮学習」出前講座